



東京電力福島第1原発事故の収束の見通しが立っていないにもかかわらず、岸田自公政権は、原発回帰の道を突き進んでいます。こ

んなとき、NHKETV特集「膨張と忘却」

(2日放送)は、結論

ありきの原発政策の無責任さを改めて浮き彫りにしました。

番組の副題は、「理

した数万点の未公開資料「吉岡文書」に加えて、関係者の証言などをもとに国の「核燃料サイクル」政策続行の舞台裏に迫りました。

「核燃料サイクル」というのは、原発を動か

無謀な原発政策暴いたTV

した後のウラン、プルトニウムを使用するとしていた福井県の高速増殖炉「もんじゅ」も1兆円以上の国費が費やされた末、廃炉が決

定、「核燃料サイクル」自体、破綻しているのが現実です。

らも「いったん立ち止まって国民的議論が必要」と内部告発があったにもかかわらず、政策変更のコストといった非論理的な理由をつ

け見直すことなく今にいたっているのです。注目したのは、核燃

かせば必ず出る使用済み核燃料を青森県六ヶ所村の再処理工場

で再処理し、再利用する仕組み。しかし、再処理工場は、建設開始から30年もたったのに、い

まだに完成のめどもたっていない。再処理済産業界の若手官僚か

国民の苦難をよそに原発に固執する自民党。その背景には、この10年間だけで70億円を